

たった1度の人生を、誰もが精
いっぱい生きています。愛情と信
頼に満ちた温かい人間関係の中
で、人として尊ばれ、幸せに暮らした
いと願っています。「好きな人と結
婚して、好きな所で豊かな生活を
したい」、「自分の能力を発揮し働
きたい」。こうした当然の願いを、
日本国憲法では『侵すことのでき
ない権利』、いわゆる『基本的人権』
として、すべての人に保証してい
ます。

そのようなことから、市では市
民一人一人の人権が尊重される社
会の実現をめざして、関係機関や
団体などとの連携により、人権に
関する研修会や講演会を開催する
など、人権・同和教育の推進に努
めてきました。

その取り組みをさらに充実させ
るため、市教育委員会は昨年8月
に『人権問題に関する市民意識調
査』を実施しました。今回の特集
では、この調査結果を通じて、私
たちの人権意識について考察し、
すべての人の人権が尊重されるた
めには何が必要なのかを考えます。

8月は同和教育啓発強調月間
です。この機会に、自分を見つめ直
してみたいかがですか。

特集

8月は 同和教育啓発強調月間です

誰もが人権を尊重される
明るく住みよい社会をめざして

● 問合せ 生涯学習課人権・同和教育係 (☎33186)

《人権問題に関する市民意識調査》

同和教育をはじめとする人権問題に関する市民の皆さんの意識を把握することで、これまでの教育・啓発の成果や問題点を明らかにし、今後の取り組みの指針となる基礎資料を得るため、およそ5年置きに実施している調査です。

お気軽にご参加ください

同和問題啓発強調月間中の催し

2016 同和問題講演会

人権・同和問題について理解し、考えるきっかけとして、市では『同和問題講演会』を開催します。この機会にぜひあなたも参加してみませんか。



- 日時 8月26日(金)
午後1時30分～3時
- 場所 市民センター 文化ホール
- 入場料 無料
- 演題 『笑って考えよう
身近な人権』
- 講師 せっさてい たくま 切磋亭 琢磨 さん
(社会人落語家)

《講師プロフィール》

1951年、三重県生まれ。静岡大学教育学部卒業後、三重県の教員になる。1981年に落語『寝床の会』を立ち上げ、年4回のペースの落語会は2007年には100回目を迎え、現在も継続中。教員生活30年目にして早期退職し、教壇から高座へくら替え。『人権落語』を通じて、日常にある人権問題に気づいてもらおうと、精力的に活動中。教員時代に培った人権問題への鋭い視点、妻の看病、一人親としての子育て・主夫業体験なども交えながらの落語付き講演が好評。

※手話通訳・要約筆記を行います。

人と人との絆を確かなものに

佐賀県人権・同和教育研究大会(全体会)



日時 8月8日(月)
午後2時～4時30分

場所 佐賀市文化会館
大ホール

- 内容
 - ①開会行事
 - ②記念講演
 - ▷演題 『同和教育を土台とした人権教育の在り方』(仮題)
 - ▷講師 池田 賢市 さん(中央大学教授)
- 参加料 800円(資料代を含む)
- 問合先 佐賀県人権・同和教育研究協議会事務局
(☎095266434)

市民の意識の変化を見てみましょう

昨年8月に実施した『人権問題に関する市民意識調査』の31項目のうち、同和問題に関する8項目の結果を紹介します。前回（平成22年度）の調査結果と比較し、市民の皆さんの人権意識がどのように変化したのかを確認してみましょう。



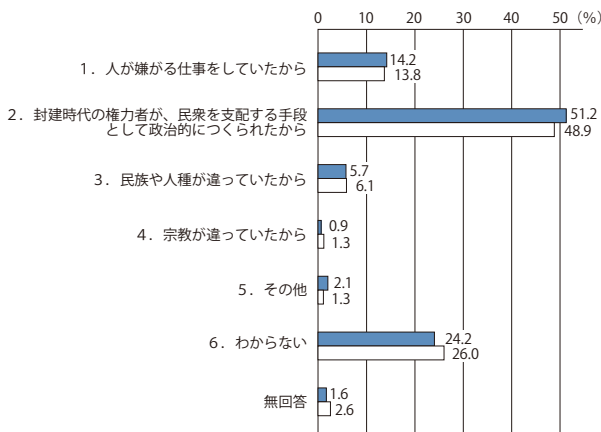
■ 人権問題に関する市民意識調査 ■

- 調査対象 平成27年4月1日現在で20歳以上の市民2,000人を無作為抽出（男性・女性各1,000人）
 - 実調査対象 1,995人（あて先不明5人分を除く）
 - 回収数 741人（回収率37.1%）
 - 調査方法 郵送による送付、回収
 - 調査時期 平成27年8月
- ※質問2～8については、質問1で同和問題を『1.よく知っている』、『2.少し知っている』と回答した562人が対象
※比率は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。

調査結果凡例

- 平成27年度
- 平成22年度

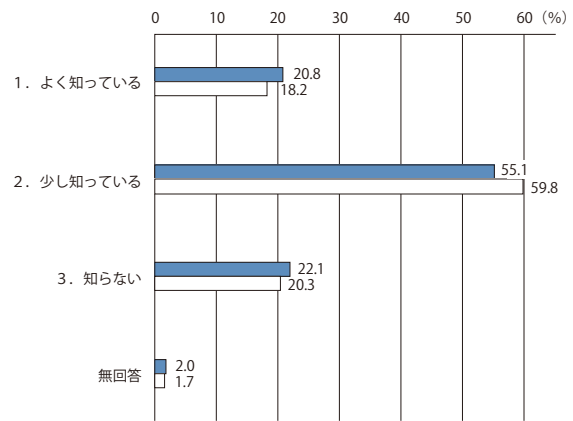
3 同和地区の人が差別される理由は 何だと思えますか



考察

『2. 封建時代の権力者が、民衆を支配する手段として政治的につくられたから』を選択した人が51.2%と最も多く、前回より2.3%増えました。また、『6. わからない』が依然として24.2%いることから、今後も啓発に努める必要があります。

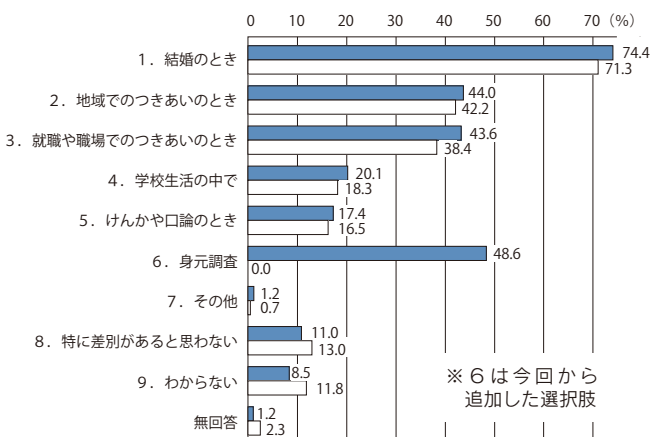
1 同和問題を知っていますか



考察

前回（平成22年度調査）より『1.よく知っている』が2.6%増え、『2.少し知っている』が4.7%減っています。また、『3.知らない』が1.8%増えていて、今後も同和問題に対する更なる啓発活動が必要です。

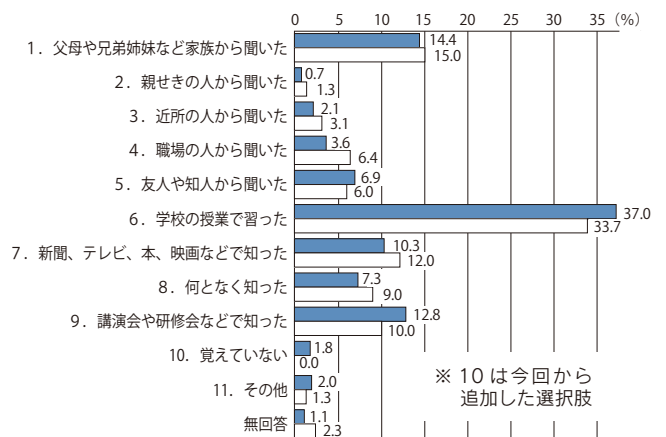
4 同和地区の人が差別されるのは どんな時だと思えますか（複数回答可）



考察

1～5の項目すべてで前回より増えています。『8. 特に差別があると思わない』が2.0%減っていることから、差別が今もなお存在しているという正しい認識が深まっていることが分かります。

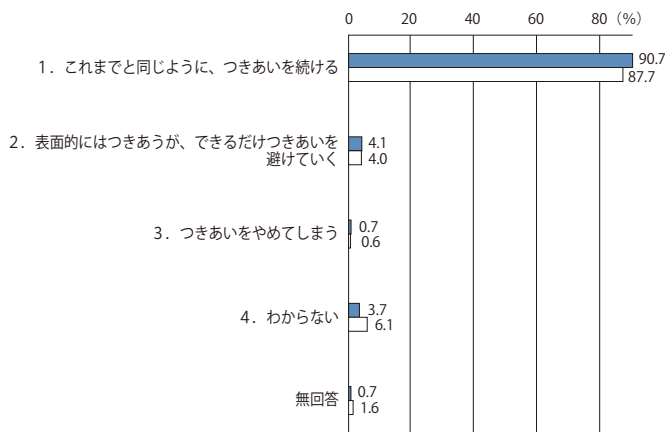
2 同和問題を知ったきっかけは何ですか



考察

『6. 学校の授業で習った』が37.0%と最も多く、前回より3.3%増え、学校における人権・同和教育の実践が進んでいるものと思われます。また、『9. 講演会や研修会などで知った』が2.8%増えており、今後も更なる啓発活動が必要です。

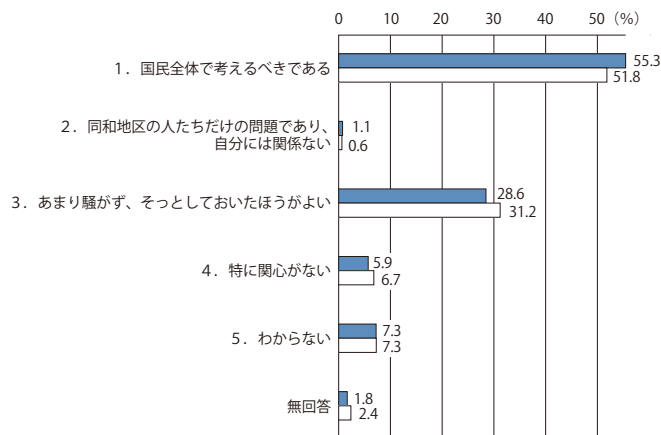
7 職場・近所の人と同和地区出身者だったらどうしますか



考察

『1. これまでと同じように、つきあい続ける』を選択した人が、前回より3.0%増え、9割を超えました。これまでの人権・同和教育の実践の成果が表れてきているものと思われます。今後も、さらに啓発を進める必要があります。

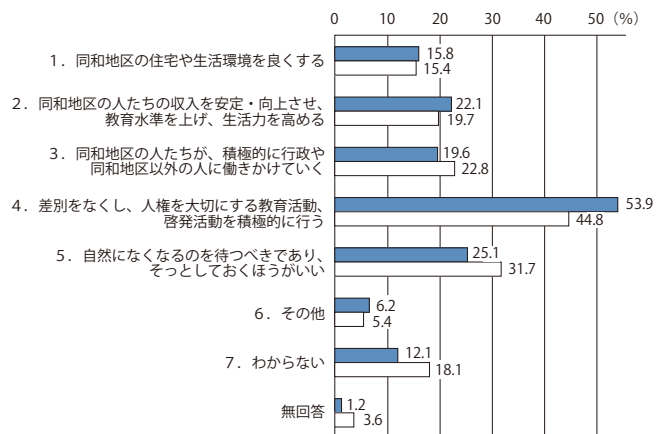
5 同和問題についてどう考えますか



考察

『1. 国民全体で考えるべきである』が55.3%で、前回より3.5%増えました。また、『3. あまり騒がず、そっとしておいたほうがよい』が2.6%減っていますが、いまだに28.6%の人が、このような『寝た子を起こすな』という考えであることがわかります。

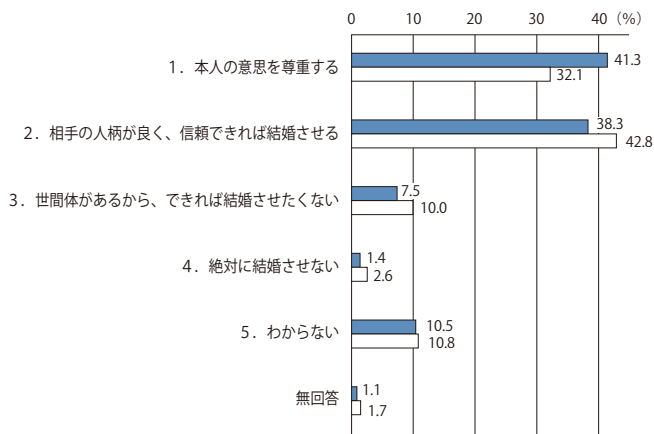
8 同和問題の解決策は何だと思いますか (2つまで回答可)



考察

『4. 差別をなくし、人権を大切にする教育活動、啓発活動を積極的に行う』が最も多く、前回より9.1%増えています。一方、『5. 自然になくなるのを待つべきであり、そっとしておくほうがよい』が6.6%減っており、人権・同和教育は必要と考える人が増えています。

6 同和地区出身者との結婚についてどう思いますか



考察

『1. 本人の意思を尊重する』、『2. 相手の人柄が良く、信頼できれば結婚させる』を合わせると約8割になります。また、『3. 世間体があるから、できれば結婚させたくない』が2.5%、『4. 絶対に結婚させない』が1.2%それぞれ減り、意識の向上がうかがえます。

人権・同和問題の解決に向けて必要なこと

あなたは意識調査の結果をどう捉えましたか。前回の調査に比べ、人権・同和問題に対する理解や認識は、いくらか深まったといえますが、調査結果の中にもあったように、『そっとしておいたほうがよい』、『自分には関係ない』などといった考えを持つ人がいまだに多いのが現状です。解決に向けて、あなたも取り組んでみませんか。

解決へのカギ①

人権・同和問題を自分の課題として認識する

差別する人がいなければ、差別は起こりません。人権・同和問題は『差別される人』の問題ではなく、『差別する人』の問題です。「自分には関係ない」と避けるのではなく、一人一人が自分自身の課題として捉え、きちんと向き合うことが大切です。

解決へのカギ②

人権・同和問題についての正しい知識を得る

人権・同和問題について、学習し知識を得ることで、正しい理解や認識が深まり、今まで自分が気づかなかった偏見や差別意識に気づくことができます。『正しく知ることが、差別をなくす第一歩』です。